

秦野市文化振興基金活用事業シンポジウム

蓑毛大日堂の諸堂と仏像

—秦野市の文化・観光振興を目指して—

秦野市蓑毛の大日堂は、奈良時代の創建と伝えられる由緒あるお寺で、平安時代に作られた仏像をまつています。特に、大日如来を中心とする五智如来坐像は、関東でも珍しいほど完全な形で残っています。しかし、お堂も仏像も損傷が激しく、ただちに修復を行わなければなりません。大日堂の諸堂と仏像の重要さと、それが秦野市の文化・観光振興に果たす役割について、広くさまざまな角度から考えます。

2023年1月21日(土)

13:30～16:15 (13:00開場)

クアーズテック秦野カルチャーホール

(秦野市文化会館) 小ホール

秦野市平沢82 (TEL) 0463-82-5111

総合司会：横山玲子 (東海大学観光学部教授)

開会挨拶：東島礼美 (宝蓮寺住職)

参加費
無料

大日堂の諸堂・諸仏が現代に問いかけるもの

松本亮三 (NPO 法人はだの大日堂保存会理事長 / 東海大学名誉教授)

大日堂の二王像

浅見龍介 (東京国立博物館学芸企画部長)

大日堂に見る登録有形文化財保全の重要性

内田美知留 ((株)ルナパーク代表) / 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会運営副委員長)

地域の観光振興における文化資源の価値について

沢登 次彦 ((株)リクルート・じゃらんリサーチセンター長)

閉会挨拶：水野功 (NPO法人はだの大日堂保存会副理事長)

主催

NPO法人はだの大日堂保存会

<http://www.minoge-bunka.org/>

お問合せ

E-mail: info@minoge-bunka.org

TEL: 0463-81-3528 (宝蓮寺内)



秦野駅から秦08系統「桜土手經由渋沢駅北口行」で「文化会館前」下車

<講演要旨>

「大日堂の諸堂・諸仏が現代に問いかけるもの」

松本亮三（NPO法人はだの大日堂保存会理事長／東海大学名誉教授）

養毛大日堂は、現在、仁王門、大日堂、不動堂、地蔵堂の四棟から構成され、五智如来坐像、聖観音立像、二王立像などの平安時代に制作された仏像を祀っています。大日堂を管理する宝蓮寺の縁起は、大日堂は奈良時代の天平14（742）年に創建されたと伝えており、大山と並んで古くから仏教文化の中心のひとつであったと思われます。現在、大日堂の堂宇も仏像群も損傷が著しく、このままでは崩壊を免れません。適切に修復保全して、大日堂をめぐる人々の思いや芸術を後世に伝えることが私たちの責務であり、秦野市の観光にも寄与するものだと考えます。

「大日堂の二王像」

浅見龍介（東京国立博物館学芸企画部長）

二王（仁王）は金剛力士とも呼ばれます。上半身は裸で、筋骨隆々とした姿が特徴です。お寺の門の左右に置かれ、邪悪なものへの侵入を防ぐ守護神です。大日堂の二王像は、表面の赤い彩色をはじめ、修理が重ねられたようですが、制作は平安時代と見られます。日本には数多くの二王像がありますが、平安時代の作は少なく大変貴重な像です。ここでは、平安時代、鎌倉時代の作例と写真で見比べてその古さを確認します。

「大日堂に見る登録有形文化財保全の重要性

—ヘリテージマネージャーの視点から—

内田美知留（株）ルナパーク代表）／全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会運営副委員長）

大日堂、仁王門、不動堂、地蔵堂は、17C末～19C前半に建てられた国の登録有形文化財で市の重要文化財を含む木像を安置しており、全国民にとってかけがえのない貴重な存在です。木造建築は手をかけなければいずれ土などの自然に還ってしまいますが、手をかければ500年以上保つこともできます。近年価値観や社会状況が大きく変化した日本ですが、このような時だからこそ、私達ヘリテージマネージャーらが本質を見定め、保存・活用・維持管理・承継など皆様の手助けとなることが重要だと思われま

「地域の観光振興における文化資源の価値について」

沢登 次彦（株）リクルート・じゃらんリサーチセンター長）

国内観光も活性化しています。また、訪日外国人入国の制限も撤廃され、いよいよ地域観光の回復が始まります。そして、それは力強い成長となるはずですが、キーとなるテーマは、「地域固有の文化的価値(ここにしかない価値)」を、どう見つけ、育て、伝えていくか、だと思います。カスタマーデータ(定量的に)とカスタマーである外国人の声(定性的に)をもとに、皆様に、お伝えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。